

学 長 式 辞

本日、佐賀女子短期大学、地域みらい学科4つのコース、こども未来学科3つのコースの全課程を修了した卒業生144名、そして日本語別科の課程を修了した20名の修了生のみなさん、おめでとう！地元佐賀県、長崎県、福岡県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、さらには、京都府、鳥取県、また海外は、ミャンマー、韓国、ネパールから、この大学に集まり、ともに学んできたみなさんに、佐賀女子短期大学の全教職員、在校生を代表して、心からの祝福を送ります。

ご家族、ご親族のみなさまにも、お祝い申し上げます。どうか今日はたっぷり、卒業生をほめてあげてください。みんな、がんばりましたよ。

今日まで本学の学生を支え、励ましてくださった後援会、同窓会若楠会の会長はじめ、お越しいただいた来賓のみなさま、実習や社会的活動、アルバイトなどで支援いただいた施設のみなさまに、卒業生、修了生とともに、感謝を申し上げます。

みなさんは、入学したときから、実に、すでに、宝物、宝石のような存在でした。なぜならば、みなさんが大学生として学びをはじめたということは、決して個人的なことだけではなく、社会的意味をも持っているからです。つまり、みなさんがみずから選択した進路は、教育、福祉、地域やグローバルな産業を担う人となることで、それは、まさに社会が待ち望んでいることです。みなさんの登場を待っている人が、世の中にはたくさんいます。

それにしても、短期大学での学びは、非常に密度の濃いハードなものだったと思います。ノンストップで、高速道路をひたすら進むようなものだったかも知れません。そして、みなさんは、立派にやり遂げました。卒業生として、今日、ここにいます！

こうして、壇上から見ていると、ひとりひとりがキラキラ輝いている宝石のようです。

本日、卒業式にあたって、私が学長として、みなさんに最初に贈りたい言葉、それは、「**自分を信じよう、自分に自信を持とう**」ということです。iPhoneを発明し、Apple社を創業したスティーブ・ジョブスの非常に有名な言葉があります。

「あなたの時間は限られている。他人の人生を生きることで無駄にしてはいけない。誰かの考えに縛られ、ただ従うだけの生き方はするな。他人の意見に振り回され、自分の心の声をかけ消されないように。そして、なにより大切なのは、自分の心と直感を信じ、それに従う勇気を持つこと。不思議なことに、心や直感は、すでにあなたが何になりたいのかを知っている」と。(訳 青柳達也本学准教授)

そう！自分を信じてあげられなくてどうする？どうか、自分の心の声に耳を傾け、自分の判断に自信を持って、新しい生活、仕事に臨んでほしいと思います。

iPhoneが生まれて18年。みなさんはその頃に生まれ、デジタル・ネイティブとか、Z世代と呼ばれて

います。デジタル社会が本格的に到来し、SNSが情報流通のひとつの主流になり、また3年前にChatGPTが登場するなどAIが日々劇的な進化を続けています。私が20歳の頃は、スマホも携帯電話も、もちろんパソコンもなかったのです。ほんの数十年前まで、情報は、新聞を読んだり、テレビを見たり、自分からすすんで求めるものでした。ところがいまは、そのスマホが、常に世界中日本中の情報を、勝手に洪水のようにもちこんで来ます。現代人が1日に接する情報は、今から数百年前、江戸時代の1年、さらに千年前、平安時代の10年と言われていています。情報の流れのこれほどの速さは、人類の歴史において初めてのことです。人間の脳は、情報の速さについていくほど進化していません。それでも、ちょっとした時間の隙間に、人はスマホを見る、スマホが見当たらないと不安になる。スマホをタップし、スクロールするという衝動を私たちは抑えることができなくなりました。スマホで見ているのは、バーチャルな世界なのに、そのことが気になって、目の前の現実には注意力を失っています。近年、人の集中力の平均持続時間は、12秒から8秒に低下したとの研究があります。ちなみに金魚は9秒だそうです。ステイブ・ジョブズもこんなことは想像できなかったかも知れません。他人の生活をのぞき見しているうちに、現代人の脳はヘトヘトに疲れています。

そこで、今日みなさんに贈りたい言葉のふたつ目は、「たまにはスマホを置き、心を落ち着かせて、目の前の人の生身の声を聴き、自然の音に耳を澄ませよう」ということです。それが情報に振り回されない賢いスタイルです。また、教育職や福祉職につくみなさんにとっては、特別重要な課題だと思います。どうか、仕事でも、友人づき合いも、家庭でも、ときにはスマホから離れて、人をしっかり見つめて、聞き上手になってください。人生、得することを保証します。

本日、授与した卒業証書、修了書は、1枚の紙にしかすぎないですが、みなさんの汗と努力や家族のみなさんの想いが染み込んでいます。その価値は、お金では買えません。しかし、学校の学びに卒業はあっても、人生の学びに卒業はありません。予測不可能で、厳しい時代です。しかも、日本社会で、女性が自立した生き方を貫くことは簡単ではありません。だからこそ、大学での思い出を胸に刻んで、卒業生同士励まし合い、そして、学び続けることによって、未来を切り拓いてください。

これからも母校は、ずっとみなさんの味方です。うれしいときでも、つらいときでも、いつでも帰ってきてください。

佐賀女子短期大学も、毎年、進化を続け、びっくりするぐらい発展してみせます。みなさんが自慢したくなる母校になります。応援をお願いします。

「自分を信じよう、自分に自信を持とう」、「たまにはスマホを置き、心を落ち着かせて、目の前の人の生身の声を聴き、自然の音に耳を澄ませよう」、

そして、今日みなさんに贈る最後の言葉は、「We can do it !! きっとうまくいく!!!」です。

「We can do it !! きっとうまくいく!!!」

あらためて、卒業おめでとうございます！

2025年3月14日

佐賀女子短期大学 学長 今村 正治